

イグサ実生苗利用栽培法 (第1報)

深浦壯一・飯牟禮和彦
(熊本県農業研究センターい業研究所)

Souichi FUKAURA and Kazuhiko IMURE:
Cultivation with Seedling Plant of Mat Rush (1)

いぐさの栽培面積は低価格の海外産品に押され減少の一途をたどっており、国内い草生産の省力低コスト化が強く求められている。

いぐさ現行栽培法の生産労働時間の約半分は本田移植までの作業時間であり¹⁾、その内容は雇用労力の手作業を主とする親株の育成・堀上および株分けによる本田移植苗の作成にある。

そこで本試験では慣行の株分け苗移植栽培法に代わる実生苗栽培法の可能性を生育量 (地上部乾物重・草丈) を指標として検討した。

1. 材料および方法

試験1：適播種期および適栽植密度に関する試験

試験区の構成は、播種期を7月4日・8月4日および9月5日の3処理、栽植株数を33・28および23株/m²の3処理とした。慣行区として「岡山3号」の株分け苗を使用した33株/m²植付け区を設定した。試験規模は一区2.8m²の2区制である。調査は茎長および地上部乾物重を各区30株調査した。供試種子は2000年夏採取の遺伝資源 GKS001002「沖縄太い自殖」の自然自殖種子を利用した。い草用ポット式育苗箱に市販のい草育苗用床土を充填し120mg/箱を散播した後、網室内のビニルプールに置床し、箱が水没しない程度の水位に地下水を常時掛け流し、適時市販液肥を施肥した。12月8日に先刈苗を手植え移植し、翌年の7月9日に収穫した。その他は耕種基準に準じた。

試験2：育苗箱に関する試験

試験区の構成は「マット苗」区および「ポット苗」区の2処理とした。「マット苗」は水稲用マット育苗箱に240mg/箱を播種育苗した苗を、水稲移植機により掻き落とし手植えた。「ポット苗」区はみのる式ポット型育苗箱に120mg/箱播種育苗した苗を (試験1を兼ねる) 手植えた。播種期は8月4日とし、栽植密度は33, 23株/m², その他は試験1に準じた。

試験3：一株苗立ち数に関する試験

試験区の構成はポット苗の3~4葉期にポット当たり1本に間引いた「処理区」および「無処理区」(試験1を兼ねる) とした。播種期は9月5日としみのる式ポット型育苗箱を使用した。栽植密度は28, 23株/m², その他は試験1に準じた。

2. 結果および考察

発芽苗立ちはいずれの試験においても順調であり、苗の生育も問題なく12月の移植時期には手植可能な生育量が確保できた。

試験1：播種時期に関しては、早い時期ほど茎長・地上部乾物重とも大きく、またいずれの時期も慣行栽培区より生育量が大きかった (第1・2図)。栽植密度に関しては、28株区>23株区>=33株区の順に大きく、いず

れの密度においても慣行栽培区より生育量が大きかった (第1・2図)。

試験2：育苗箱に関する試験では、ポット苗がマット苗より生育量が大きく、いずれの区も慣行栽培区並みの生育量を示した (第1表)。

試験3：一株苗立ち数に関する試験では、一本立ち区も無処理区も差がなく、慣行栽培区並みの生育量を示した (第1表)。

いずれの時期・栽植密度の試験区においても慣行栽培区と比べて同等の生育量を示すことから、生育量に関しては夏から秋にかけて播種し翌年7月に収穫する実生苗利用栽培は可能であることが明らかとなった。

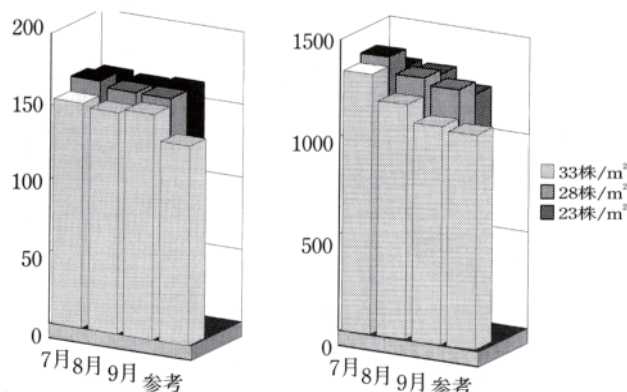
播種は7月から9月上旬まで可能であるが苗管理の省力化を考えると育苗期間の短縮と夏の高温を避けるため9月蒔きが適している。

栽植密度は慣行同様28株/m²が最適であるが23株もほぼ同等の生育量を示し、かつ育苗方法はポット苗・マット苗どちらも適しているため、機械利用率の向上の面から水稲用移植機の応用が考えられる。

ポット苗使用の場合一粒の苗立ちでも無処理区とはほぼ同等の生育量を示すことから、ポット苗使用実生苗利用栽培法はポット当たり苗立ち数に関わりなく安定した栽培方法である。

引用文献

- 1) 平成11年産い草生産費 (熊本)：統調4-5P, 2000.



第1図 茎長 (cm)

第2図 乾物重 g/m²

第1表 茎長および地上部乾物重

株/m ²	茎長 (cm)			乾物重 (g/m ²)		
	33	28	23	33	28	23
8月マット	145±2.1	—	156±2.8	1161±82	—	1178±46
8月ポット	153±1.4	—	160±1.4	1210±98	—	1282±12
9月一本立	—	158±2.8	159±0.7	—	1154±181	1201±0
9月複数立	—	161±4.2	162±5.0	—	1279±0	1213±12
参考区	139±5.0	—	—	—	1112±163	—